

一般質問通告書

令和8年6月15日（月）一般質問1日目

順位	要 旨	議席	氏名・会派
1	<p>1. ふるさと住民登録制度の推進について</p> <p>(1) 「ふるさと住民登録制度」導入の考え方について</p> <p>(2) 導入後に期待される効果について</p> <p>2. 市民憲章推進協議会について</p> <p>(1) 市民憲章推進協議会のこれまでの活動状況と解散に至った経緯について</p> <p>(2) 解散による影響とリスクについて</p> <p>(3) 市民憲章の位置づけと活動の継承維持について</p> <p>(4) 解散後の地域支援策について</p> <p>3. 生命（いのち）の安全教育について</p> <p>(1) 本市における児童・生徒への「生命の安全教育」の実施状況と課題について</p> <p>(2) 教員の外部講師のネットワーク構築や保護者の理解促進などに向けた仕組みづくりについて</p> <p>(3) 教職員への研修について</p>	5	進藤 優子 (公明党)

一 般 質 問 通 告 書

令和8年6月15日（月）一般質問1日目

順位	要 旨	議席	氏名・会派
2	<p>1. 男鹿東中学校・男鹿南中学校の統合を見据えた、統合校の配置と男鹿工業高校校舎等の教育的活用について</p> <p>(1) 統合中学校の建築場所に係る検討基準や今後のスケジュール、保護者や地域への説明の手順について</p> <p>(2) 男鹿工業高校の校舎や既存施設を統合中学校の候補地の一つとして比較検討する考え、及び通学時間、スクールバスの運行、道路事情、踏切通過の有無、敷地条件、既存施設の活用、北部地区から通学する生徒の負担軽減等の観点から、客観的な検討を行う考えについて</p> <p>(3) 船越地区を「教育、子育て、スポーツ、地域交流を支える拠点」として位置づけ、今後の学校再編や男鹿工業高校校舎等の活用、子育て環境の整備と結びつけていく考えについて</p> <p>2. 市民が集い、学び、交流する複合交流施設の整備と候補地選定の在り方について</p> <p>(1) 図書館機能、子育て支援、多世代交流、市民活動支援、居場所づくりなどの整理、及び施設の軸となる機能について</p> <p>(2) 候補地の選定にあたり、市民利用のしやすさ、交通アクセス、駐車場、周辺施設との連携、町なかの回遊性やにぎわいづくり、防災面の課題等に対する総合評価の基準、及び公共交通や市役所、オガレ、市街地との連動性の評価方法について</p> <p>(3) 今後の基本計画の策定に向けて、市民アンケートやワークショップで出された意見の反映、及び候補地や施設機能、事業費、財源、運営体制に関する市民への説明について</p> <p>3. 男鹿北部地区における観光振興と防災・道路・生活インフラの整備について</p> <p>(1) 国道101号浜間口バイパスの進捗状況や完成・供用開始の見通し、及び北部観光、生活道路、防災道路としての効果について</p> <p>(2) 滝川河川の整備状況や上流の杉下地区付近を含む浸水リスクへの対応、及び河川の浚渫、堆積土砂の点検、流下能力の確認、県への要望状況など地域住民の安全確保に向けた具体的な対応について</p> <p>(3) 加茂青砂地区の県道沿いにおいて、春以降、樹木が生い茂り、カーブ等で見通しが悪く危険な箇所があることの把握、及び県に対する樹木伐採や道路環境改善の働きかけについて</p> <p>(4) 加茂青砂地区から要望のある災害時のヘリポート又はヘリが離着陸できる場所の整備について、市の調査では、候補地は航空法上の安全な離着陸条件を満たすことが難しく、ヘリのランデブーポイントとして設定できないとの整理がなされているが、どのように地域へ説明し、住民不安に伝えていくのか。また、代替候補地の再調査、加茂漁港を活用した海路救助、関係機関等との連携を含め、今後どのように実効性のある孤立対策を具体化していくのか、加茂青砂地区における災害時の孤立対策について</p>	13	太田 穰 (新星会)

一般質問通告書

令和8年6月15日（月）一般質問1日目

順位	要 旨	議席	氏名・会派
3	<p>1. 人口減少時代における地域維持と行政運営について</p> <p>(1) 人口減少が進行する中、今後の行政運営について、どのような基本認識を持っているのか。また、人口減少社会において、行政サービス・地域コミュニティ・公共施設・地域経済をどのように維持していく考えなのか</p> <p>(2) 学校統合後における地域コミュニティの維持について、どのように考えているのか。また、閉校となった校舎や施設について、防災拠点・地域交流施設・民間活用・移住定住施策等を含めて、今後どのような利活用を検討しているのか</p> <p>(3) 空き家対策の実績と課題について、どのように分析しているのか。また、空き家バンクの実効性向上・解体補助制度・民間事業者との連携・移住定住施策との連動など、今後どのような強化策を考えているのか</p> <p>(4) 公共施設再編の基本方針はどのようなものか。また、統廃合の基準・長寿命化・利用形態・地域バランスをどのように判断していくのか。さらに、市民への説明や合意形成について、どのように進めていく考えなのか</p> <p>2. 老朽化するインフラ対策について</p> <p>(1) 上下水道の管路・橋梁・道路等の老朽化の現状をどのように把握しているのか。また、耐用年数を超過した施設や更新が必要と判断される箇所はどの程度あるのか</p> <p>(2) インフラ施設の点検をどのような体制で行っているのか。また、漏水調査・空洞調査・AIやデジタル技術を活用した維持管理など、予防保全型の取組はどの程度進められているのか</p> <p>(3) 上下水道・橋梁・道路など今後のインフラの更新について、どのような長期計画を持っているのか。また、そのための財源確保に関して、国の補助制度や有利な地方債等の活用をどのように考えているのか</p> <p>(4) インフラの維持管理において、市民からの通報や情報提供をさらに活用していく考えはあるのか。また、市民の安全意識の向上を含めて、どのような取組を進めていくのか</p>	15	船木 正博 (新 星 会)

一般質問通告書

令和8年6月15日（月）一般質問1日目

順位	要 旨	議席	氏名・会派
4	<p>1. 再エネ事業の本市での在り方について</p> <p>(1) 船越地区、野石地区の事故を踏まえ、風力発電設備に異常や事故が発生した場合、事業者から市へ速やかに報告される体制は十分に整っているのか。また、大型・小型を含む市内の風力発電設備について、事業者名、設置場所、稼働点検状況、緊急連絡先等を網羅的にリスト化する必要性はあるのか</p> <p>(2) 経済産業省が示した「落雷検出装置の作動状況、落雷データの欠損、内部点検等」の要請を踏まえつつ、国や県の対応を待たずに市独自で点検状況の確認や安全確認項目の整理・報告を求める考えはあるのか</p> <p>(3) 今回の二つの事故において、報告体制、市民への情報提供、近隣住民への説明、安全確保、再発防止策の共有等の観点で、男鹿市再生可能エネルギー事業導入ガイドラインは十分に機能したのか。また、ガイドラインの見直し、安全協定の締結、事故時の報告体制、小型風車を含めた管理ルール、撤去・廃止時の責任の明確化など、より実効性のある仕組みをつくる考えはあるのか</p> <p>(4) 再エネ事業による税収、雇用、地元企業への波及効果、防災面での活用等は、男鹿市にどのような利益が生まれているのか。また、再エネ事業の利益を、市民の電気代負担軽減、公共施設の電気代削減、地域還元基金、子育て・福祉・地元事業者支援など、市民の暮らしに見える形で還元する考えがあるのか</p> <p>(5) 風力のみならず、小水力、波力、温泉熱、木質バイオマス、蓄電池、バイオマス、地域新電力など、男鹿らしい分散型エネルギーの在り方を検討する考えがあるのか</p> <p>(6) 市民、事業者、専門家、行政と一緒に、安全性、情報公開、地域還元、電気代負担軽減、災害時活用、撤去責任などを話し合う場を設ける考えがあるのか</p> <p>2. 農地を次世代へつなぐビジョンについて</p> <p>(1) 地域計画と目標地図について、10年後の男鹿の農地を次世代へつなぐビジョンとしてどのように活用し、耕作放棄地や遊休農地を未然に防ぐため、農家の意向把握や農地の見守りをどのように反映していくのか</p> <p>(2) 離農や規模縮小を考えている方、後継者がいない方の思いをどのように把握し、離農を考える方が早い段階で相談ができ、農地・農機具・作業小屋・地域との関係まで含め、安心して次の担い手へつなげられる相談体制を整える考えはあるのか</p> <p>(3) みどりの食料システム戦略を生かし、減農薬、減化学肥料、有機農業などを、学校給食、観光、飲食店、道の駅、加工品、ふるさと納税などにつなげ、農家所得や地域経済に返していく考えはあるのか</p> <p>(4) 農地の継承、担い手づくり、農産物の加工、販路づくり、観光、食育を一体で進める「男鹿版の農業循環モデル」を検討する考えはあるのか</p> <p>(5) 地域計画、目標地図、農地中間管理機構、新規就農支援、みどりの食料システム戦略、販路づくりなどを一つの流れとして、農家や市民に分かりやすく示すロードマップをつくる考えはあるのか</p>	2	船木 一人 (明政会)

一般質問通告書

令和8年6月15日（月）一般質問1日目

順位	要 旨	議席	氏名・会派
4	<p>3. 小水力発電の可能性と市民主体の取組への支援について</p> <p>(1) 地域資源を活用した小水力発電の可能性について、市としてどのように認識しているのか</p> <p>(2) 小水力発電について、発電量の大きさだけでなく、災害時の分散型電源や、地域エネルギーの地産地消、地域資源の有効活用といった観点から、どのような可能性があると考えているのか</p> <p>(3) 防災・減災の観点から、本市において小水力発電を小規模分散型エネルギーの選択肢の一つとして認識しているのか</p> <p>(4) 市民や民間事業者が主体となり、地域資源を活用した再生可能エネルギーの可能性調査を行う場合、市として、既存資料の提供、関係機関との橋渡し、担当部署との情報交換、技術的知見の共有など、可能な範囲で支援する考えがあるのか</p> <p>4. ストーリーがあるまちづくりについて</p> <p>(1) 今後のまちづくりにおいて、「男鹿市は何を大切にし、どのような未来へ向かうのか」といった市民が共有できる大きなストーリーや未来像をどのように描き、発信していく考えがあるのか</p> <p>(2) 農業、漁業、観光、商業、教育、福祉、エネルギーなどを分野ごとに分けるのではなく、有機的につなぎ、男鹿らしい地域循環をつくっていく考えがあるのか</p> <p>(3) 食料の自給、農地の保全、地域内経済循環、再生可能エネルギー、脱炭素、観光、移住定住、健康、教育などを男鹿らしい一つのストーリーとしてつなぎ、地域ビジョンとして発信していく考えがあるのか</p> <p>(4) 所得向上だけでなく、市民の食費、光熱費、住居費、交通費、福祉や子育てに関わる負担など、生活インフラコストを下げ、実質的な可処分所得を高めるという視点を政策全体に位置づけていく考えがあるのか</p> <p>(5) 市民や事業者がまちづくりの物語に参加し、小さな挑戦を始められる仕組みを、今後どのようにつくっていく考えがあるのか</p> <p>(6) 分野を超えて地域資源をつなぎ、庁内横断で男鹿の未来像を共有しながら施策を進めていく体制づくりをどのように考えるか</p>	2	船木 一人 (明 政 会)